



創業当時の建物の様子

下野紡績株式会社は、明治18年(1885年)1月に野沢泰次郎が創業しました。創業した当時は、野沢紡績所という名称でした。当時の工場は、南北に180m、東西に100mの敷地に建てられ、職工(工場で働く人)は約50名でした。紡績所では、下館産の綿と真岡産の綿を使用して「綿糸」を生産して

いました。真岡産の綿の産出量が少なかったため、下館産9割に対して真岡産1割でした。

下野紡績は、夜も工場を動かすなどして、売り上げも順調に伸びていきました。明治22年(1889年)には下籠谷の工場を大きくし、埼玉県さいたまの栗橋くりはしに工場をつくりました。しかし、当時は紡績を行う大会社が次々と設立され、競争が激しくなったため、明治23年(1890年)には夜に工場を動かすのをやめました。

明治27年(1894年)には、下籠谷の本社工場が火災かさいにあってしまいました。火災前と同じ場所に、新しく工場を建てましたが、工場の機械を増やしたり、水車を強力きょうりょくにしたりしたことで、かえて生産能力は高まりました。

明治42年(1909年)11月には、東京の王子おうじに新しい工場をつくり、ますます発展への道を開きました。しかし、紡績を行う会社は、次々と大会社になっていったため、下野紡績の会社の規模では、他の会社に対抗していくのには難しくなりました。そこで、当時屈指の大会社で、その後の発展の可能性を持っていた三重みえ紡績会社と合併し、明治44年(1911年)11月1日に、下野紡績は会社として正式になくなりました。



野沢泰次郎

下籠谷の工場は、合併後3年ほどは動いていましたが、大正3年（1913年）には引き払われ、機械は栗橋工場に移されました。

さて、下野紡績をつくった野沢泰次郎は、真岡区長を3年間つとめたり、養蚕業を大規模に行ったりもしていました。特に養蚕業では、鬼怒川沿岸一帯の蚕種組合の代表や栃木県全体の代表にもなっていました。明治27年（1894年）に下野紡績の社長を退いた後も、東京にレンガ工場をつくったり、奥日光で鉱山の開発をしたりと多くの事業を行いました。野沢泰次郎は大正9年（1920年）10月に77歳で亡くなりました。



↑ 野沢泰次郎氏宅跡に建立されている記念碑



下野紡績所跡の記念碑



← 当時の下野紡績所の建物の一部が現在も台町で利用されています



下籠谷の工場から大内西小学校に移植されたモミジの大木（左）と多行松（右）